

「平成 29 年度 私立大学研究ブランディング事業」選定結果

# 選定校数は 60 校、選定率 31.9%

## 7 大学が 2 年連続の選定！

旺文社 教育情報センター 平成 29 年 11 月

文部科学省は先ごろ、「私立大学研究ブランディング事業」の平成 29 年度分として、188 件の申請に対し 60 校を選定した。2 年目となる今年は、選定校数が昨年の 40 校から大幅に増加した。以下その概要を紹介する。

### ■ 「私立大学研究ブランディング事業」とは

「私立大学研究ブランディング事業」は、学長のリーダーシップの下、大学の特色ある研究を基軸として、全学的な独自色を大きく打ち出す取組を行う私立大及び私立短大（以下「大学」）に対し、経常費・施設費・設備費を一体として重点的に支援するもの。事業は平成 28 年度に続き、2 年目となる。29 年度予算額は 79 億円（28 年度選定分及び「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の継続採択分の支援を含む）。支援期間は 3 年もしくは 5 年（申請時に選択）となっている。

内容は、大学の将来ビジョンに基づき、ブランディング戦略を策定した上で、全学的な事業実施体制及び支援体制を整えて行う取組で、目的に応じて次の 2 タイプがある。

#### ◆ タイプ A 【社会展開型】

「地域の経済・社会、雇用、文化の発展や特定の分野の発展・深化に寄与する研究」

特定の地域あるいは分野における、地域の資源活用、産業の振興・観光資源の発掘・文化の発展への寄与、企業や雇用の創出等を目的とするもの。

#### ◆ タイプ B 【世界展開型】

「先端的・学際的な研究拠点の整備により、全国的あるいは国際的な経済・社会の発展、科学技術の進展に寄与する研究」

学際・融合領域・領域間連携研究等による新たな研究領域の開拓、生産技術の確立や技術的課題への大きな寄与、国際連携等のグローバルな視点での横断的取組、社会的ニーズに対応した知の活用等を目的とするもの。

#### ≪ 申請条件等 ≫

- ① 申請は 1 大学につきタイプ A・B いずれか 1 件。

- ② 次の（ア）、（イ）のいずれかに該当する大学は申請できない。
- （ア） 前年度及び当年度の私立大学等経常費補助金の交付に際し、管理運営不適正による減額又は不交付措置を受けた学校法人が設置する大学。
- （イ） 当年度私立大学等経常費補助金を申請しないもしくは不交付の大学。
- ③ タイプAについては、（ア）、（イ）いずれにも該当する大学は申請できない。
- （ア） 主たる所在地が次のいずれかに指定された地域にある大学。
- ・首都圏整備法に定める「既成市街地」あるいは「近郊整備地帯」
  - ・近畿圏整備法に定める「既成都市区域」あるいは「近郊整備区域」
  - ・中部圏開発整備法に定める「都市整備区域」
- （イ） 収容定員 8,000 人以上の大学。

#### 《支援内容（補助金）等》

- (1) 私立大学等経常費補助（特別補助）
- ・ 1校当たり年額 2,000～3,000 万円程度を目安とするが、予算の状況及び選定時の委員会による評価等により調整を行う。大学全体に対する定額補助（使途は限定しない）。
  - ・ 取組期間が 5 年の場合は中間評価の結果等により調整を行う。
- (2) 私立学校施設整備費補助金（研究施設・研究装置）
- ・ 研究の実施に当たり研究施設又は研究装置の整備が必要な場合に、その費用の一部を補助する。
  - ・ 事業経費下限は 1,000 万円（選定年度のみ）。1 大学当たりの補助金額は、研究施設と研究装置を合計してタイプ A で 2,000 万円、タイプ B で 4,000 万円を上限とする。
- (3) 私立大学等研究設備整備費等補助金（研究設備）
- ・ 研究の実施に当たり研究設備の整備が必要な場合に、その費用の一部を補助する。
  - ・ 事業経費下限は 500 万円（図書は 100 万円）（選定年度のみ）。1 大学当たりの補助金額は 4,000 万円を上限とする。

#### 《中間評価》

- ・ 取組期間が 5 年の場合は、3 年目までの進捗状況について、4 年目に委員会による中間評価を実施（3 年の場合、中間評価は実施せず事後評価のみ）。
- ・ 中間評価の結果に基づき 4 年目以降の経常費補助の措置額を調整する。取組の進捗状況が著しく不十分な場合には 4 年目以降の経常費補助を不交付とする。

#### 《事後評価》

- ・ 取組期間の終了年度に委員会による事後評価を実施する。取組内容が極めて不十分もしくは研究成果が著しく乏しい場合は、次年度以降の一定期間中において当該大学からの申請を新規選定しない。

## ■ 選定率は、タイプAが26.8%、タイプBが41.5%

29年度の申請件数は私立大・短大合わせて188校（大学169校、短大19校）。タイプ別に見ると、タイプAが123校（大学104校、短大19校）、タイプBが65校（大学のみ）だった。

申請188校のうち、選定されたのは60校（大学55校、短大5校）で、全体の選定率は31.9%。内訳は、タイプAが33校（大学28校、短大5校）で全体の選定率は26.8%、タイプBが大学のみ27校で選定率は41.5%だった。なお、28年度は全体で、申請198校、選定40校（選定率20.2%）だった。

◆選定校数 (表①)

	申請校数	選定校数	選定率
<b>タイプA 合計</b>	<b>123</b>	<b>33</b>	<b>26.8%</b>
大学	104	28	26.9%
短大	19	5	26.3%
<b>タイプB 合計</b>	<b>65</b>	<b>27</b>	<b>41.5%</b>
大学	65	27	41.5%
短大	0	0	
<b>A・B 合計</b>	<b>188</b>	<b>60</b>	<b>31.9%</b>
大学	169	55	32.5%
短大	19	5	26.3%

◆分野別選定校数 (表②)

	タイプA		タイプB		合計	
	申請校数	選定校数	申請校数	選定校数	申請校数	選定校数
<b>人文・社会系</b>	<b>80</b>	<b>18</b>	<b>32</b>	<b>11</b>	<b>112</b>	<b>29</b>
* 短大	16	4	0	0	16	4
<b>理工・情報系</b>	<b>23</b>	<b>6</b>	<b>19</b>	<b>12</b>	<b>42</b>	<b>18</b>
* 短大	2	0	0	0	2	0
<b>生物・医歯系</b>	<b>37</b>	<b>15</b>	<b>31</b>	<b>13</b>	<b>68</b>	<b>28</b>
* 短大	2	1	0	0	2	1
<b>計</b>	<b>140</b>	<b>39</b>	<b>82</b>	<b>36</b>	<b>222</b>	<b>75</b>
* 短大	20	5	0	0	20	5

\*複数分野での審査を実施した大学があり、申請校数及び選定校数とは一致しない。  
\*下段は短大で内数。

◆地域別選定校数 (表③)

	タイプA		タイプB		合計	
	申請校数	選定校数	申請校数	選定校数	申請校数	選定校数
<b>北海道・東北</b>	<b>17</b>	<b>4</b>	<b>2</b>	<b>0</b>	<b>19</b>	<b>4</b>
* 短大	3	0	0	0	3	0
<b>関東甲信越</b>	<b>19</b>	<b>6</b>	<b>6</b>	<b>3</b>	<b>25</b>	<b>9</b>
* 短大	3	0	0	0	3	0
<b>東京都</b>	<b>7</b>	<b>2</b>	<b>36</b>	<b>18</b>	<b>43</b>	<b>20</b>
* 短大	0	0	0	0	0	0
<b>北陸・東海</b>	<b>16</b>	<b>3</b>	<b>7</b>	<b>2</b>	<b>23</b>	<b>5</b>
* 短大	1	1	0	0	1	1
<b>近畿</b>	<b>28</b>	<b>6</b>	<b>9</b>	<b>3</b>	<b>37</b>	<b>9</b>
* 短大	2	0	0	0	2	0
<b>中国・四国</b>	<b>16</b>	<b>6</b>	<b>2</b>	<b>0</b>	<b>18</b>	<b>6</b>
* 短大	3	0	0	0	3	0
<b>九州・沖縄</b>	<b>20</b>	<b>6</b>	<b>3</b>	<b>1</b>	<b>23</b>	<b>7</b>
* 短大	7	4	0	0	7	4
<b>計</b>	<b>123</b>	<b>33</b>	<b>65</b>	<b>27</b>	<b>188</b>	<b>60</b>
* 短大	19	5	0	0	19	5

\*「関東甲信越」は東京都を除く。各欄の下段は短大で内数。

選定された60校の中で、7校（順天堂大、上智大、中央大、東京理科大、金沢工業大、名城大、関西大）が28年に続き、2年連続の選定となった。また7校のうち、金沢工業大のみタイプAでの2年連続選定となっている。

\*次頁から選定校・事業名等の一覧あり。

■平成29年度 私立大学研究ブランディング事業 選定校一覧 ①

項番	大学名	タイプ	事業名	所在地	事業期間	分野		
						人文・社会系	理工・情報系	生物・医歯系
1	北海道科学大	A	北国生活環境科学拠点～積雪寒冷地域における医社工連携をとおした超高齢社会対応のための技術展開と普及～	北海道	3年	○	○	○
2	八戸工業大	A	北東北の人口減少社会における自律的課題解決に向けたハブ機能構築と社会的資本の維持開発研究事業	青森県	5年		○	
3	岩手医科大	A	医歯薬連携による全身疾患としての血管病の地域還元型学際的研究拠点	岩手県	5年			○
4	東北公益文科大	A	日本遺産を誇る山形県庄内地方を基盤とした地域文化とIT技術の融合による伝承環境研究の展開	山形県	5年	○	○	
5	東京慈恵会医科大	A	働く人の疲労とストレスに対するレジリエンスを強化するEvidence-based Methods の開発	東京都	5年			○
6	多摩大	A	大都市郊外型高齢化へ立ち向かう実践的研究－アクティブ・シニア活用への経営情報学的手法の適用－	東京都	5年	○		
7	新潟薬科大	A	健康を支援する地域産物のブランド化のコアとなる大学	新潟県	3年			○
8	新潟工科大	A	高度シミュレーション技術による地域の「風」の課題解決と人材育成	新潟県	5年		○	
9	新潟医療福祉大	A	リハビリテーション科学とスポーツ科学の融合による先端的研究拠点Sports & Health for all in Niigata－	新潟県	5年			○
10	金沢工業大	A	これからの科学技術者倫理研究 ～社会が必要とする課題への取り組み～	石川県	5年		○	
11	松本大	A	健康づくりを核に自治体・企業・医療機関と連携して進める元気な地域づくり	長野県	5年	○		
12	佐久大	A	健康長寿(佐久)を牽引する「足育(あしいく)」研究プロジェクト	長野県	3年	○		○
13	岐阜女子大	A	地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備事業	岐阜県	5年	○		
14	名古屋商科大	A	地域経済の持続発展を担うアントレプレナーに関する研究拠点整備事業	愛知県	3年	○		
15	岡崎女子短大	A	「子ども好適空間」研究拠点整備事業	愛知県	5年	○		
16	長浜バイオ大	A	フレキシブル植物工場システムと先端バイオ技術を基盤とした新たなグリーンイノベーション	滋賀県	5年			○
17	京都造形芸術大	A	京都における伝統文化のイノベーションサイクルを高度化させる拠点の形成	京都府	5年	○		
18	大阪医科大	A	オミックス医療に向けた口腔内細菌叢研究とライフコース疫学研究融合による少子高齢中核市活性化モデル創出	大阪府	5年			○
19	大阪工業大	A	モノづくり大阪に躍動感を－地域産業支援プラットフォーム(大阪工業大学)の挑戦－	大阪府	5年		○	
20	神戸常盤大	A	地域子育てプラットフォームの構築を通じたAll-Winプラン	兵庫県	5年	○		
21	帝塚山大	A	「帝塚山プラットフォーム」の構築による学際的「奈良学」研究の推進	奈良県	3年	○		
22	岡山商科大	A	『寄り添い型研究』による地域価値の向上	岡山県	3年	○		
23	吉備国際大	A	エコ農業ブランディングによる発展的創成モデルの形成	岡山県	5年	○		○
24	福山大	A	瀬戸内海 しまなみ沿岸生態系に眠る多面的機能の解明と産業支援・教育	広島県	5年			○
25	徳山大	A	「健康(ウェルネス)都市しゅうなん」構築に向けた研究・活動拠点の創設	山口県	5年	○		
26	四国大	A	「阿波藍」の新たな価値創造を目指した文化的・科学研究及びその魅力発信・人材育成拠点の構築	徳島県	5年	○		○
27	徳島文理大	A	藻類成長因子を用いた海藻栽培技術イノベーション	徳島県	5年			○
28	久留米大	A	すこやかな「次代」と「人」を創る研究拠点大学へ～先端がん治療・研究による挑戦～	福岡県	5年			○
29	福岡歯科大	A	高齢者ヘルスプロモーションと地域包括ケアへの口腔医学の展開～要介護化阻止と誤嚥性肺炎ゼロを目指して～	福岡県	5年			○
30	福岡医療短大	A	口腔機能向上でイキイキ長寿社会の実現－話そう・食べよう・いつまでも－	福岡県	5年			○

■平成29年度 私立大学研究ブランディング事業 選定校一覧 ②

項番	大学名	タイプ	事業名	所在地	事業期間	分野		
						人文・社会系	理工・情報系	生物・医歯系
31	西九州大短大部	A	発達障害児の二次障害予防の支援研究～二次障害を予防し関係者の負担軽減を目指すために～	佐賀県	5年	○		
32	佐賀女子短大	A	短期大学におけるダブルディグリープログラムを推進する韓国語併記学習教材の開発と韓国文化研究拠点の構築	佐賀県	5年	○		
33	鹿児島女子短大	A	鹿児島の食文化の継承と発展のための拠点形成～「鹿女短 食育ステーション」構築事業～	鹿児島県	5年	○		
34	自治医科大	B	実践的抗加齢医学の開発と普及：健康寿命の延長を目指して	栃木県	5年			○
35	日本工業大	B	次世代動力源としての全固体電池技術の開発と応用	埼玉県	3年		○	
36	北里大	B	農医連携研究拠点の創出：食を介した腸内環境制御による健康社会構築	東京都	5年			○
37	東京都市大	B	都市研究の都市大：魅力ある未来都市創生に貢献するエイジングシティ研究および実用化の国際フロンティア	東京都	5年		○	
38	順天堂大	B	スポーツ科学による「Health Creation」：代謝科学研究を基軸に世界展開するブランディング事業	東京都	5年	○		○
39	上智大	B	「人間の安全保障」実現に取り組む国際的研究拠点大学としてのブランド形成	東京都	5年	○		
40	成蹊大	B	学融合的アプローチによる地域共生社会の実装スキームの確立と社会実践	東京都	5年	○	○	
41	創価大	B	途上国における持続可能な循環型社会の構築に向けた適正技術の研究開発と新たな地域産業基盤の形成	東京都	5年		○	
42	中央大	B	超スマート社会の実現に向けた沿岸都市における防災プラットフォームの開発	東京都	5年		○	
43	帝京大	B	グローバルな視点からの危機管理3カテゴリー（事故、災害、テロ）の学際的エビデンス構築	東京都	5年			○
44	東京医科大	B	先制医療による健康長寿社会の実現を目指した低侵襲医療の世界的拠点形成	東京都	5年			○
45	東京歯科大	B	顎骨疾患の集学的研究拠点形成：包括的な顎口腔機能回復によるサステナブルな健康長寿社会の実現	東京都	5年			○
46	東京電機大	B	グローバルIoT時代におけるセキュアかつ高度な生体医工学拠点の形成	東京都	5年		○	○
47	東京理科大	B	スペース・コロニー研究拠点の形成～宇宙滞在技術の高度化と社会実装の促進～	東京都	5年		○	
48	東京薬科大	B	健康社会の実現に向けた創薬化学の展開と人財育成	東京都	5年			○
49	東洋大	B	多階層的研究によるアスリートサポートから高齢者ヘルスサポート技術への展開	東京都	5年		○	
50	日本大	B	スポーツ日大によるアンチ・ドーピング教育研究拠点確立とポストオリンピックへの展開	東京都	5年	○		○
51	法政大	B	江戸東京研究の先端的・学際的拠点形成	東京都	5年	○	○	
52	立正大	B	立正大学ウズベキスタン学術交流プロジェクト	東京都	3年	○		
53	早稲田大	B	多様な全世代が参画する社会へのデザイナー・医理工社連携による新知と実践－	東京都	5年	○	○	○
54	関東学院大	B	命を守り希望を繋ぐ－新しい「防災・減災・復興学」の構築と研究拠点形成－	神奈川県	5年	○	○	
55	藤田保健衛生大	B	高ストレス社会を克服する「精神神経疾患の最先端研究開発拠点大学」としてのブランド確立	愛知県	5年			○
56	名城大	B	新規ナノ材料の開拓と創製による名城大ブランド構築プログラム	愛知県	5年		○	
57	京都産業大	B	“生命活動の根幹”をなすタンパク質研究の世界的拠点の形成と推進	京都府	5年			○
58	大谷大	B	仏教を基軸とする国際的研究拠点の形成と〈人間学〉の推進	京都府	5年	○		
59	関西大	B	オープン・プラットフォームが開く関大の東アジア文化研究	大阪府	5年	○		
60	福岡大	B	ライフタイムにおける活力形成による健康な時間の創造～福奏プロジェクト～	福岡県	5年	○		○